

収録・解説 酒井董美

語り手 浦上金一さん
(昭和3年生まれ)
平成8年11月16日収録

あらすじ

昔、12月の雪の降る日、富山の方から薬屋さんが、薬の入れ替えに來られた。

ところが、村の人がえらく悲しんでいるようなので、庄屋さんに尋ねると「氏神さんに毎年節季に娘さんを神社にささげ祭りにやいけんことになって、集落の家の娘さんが取られるということなので、日にちが来たので、みなが悲しんでおる」と言つ。それを聞いた薬屋さんは内緒で、氏神さんに出かけ待っていた。
12時が過ぎ、山の上の

薬屋さんの化け物退治

(米子市観音寺)



イラスト・福本隆男

本格昔話「愚かな動物」の一つ

方から雪をかぶった何かな大きな化け物みたいなものが下りてきて、娘さん度は大きな薬箱を担いで入った箱を開け、山の

また上の方へまで娘さんを連れて逃げた。薬屋さんは庄屋さんに「来年もういつぱんやって来て、今度は退治さしてもらおう」と帰ったそう

化け物に娘さんをあげる晩になったので、庄屋さんと泊まって、箱に入れられた娘さんと一緒に神社へ上がった。夜中の1時、2時になった。山の上から雪をかぶ

富山の薬屋さんも懐の中へ化け物を退治する細い箱を持って来て、やぶの陰から今か今かと待つており、化け物が娘さん

した。いったいどげして、その化け物を退治したか言つて聞かしてごしえ」とだいたい言われた。けれども、薬屋さんは「えんや、わしがまた今度そげなことがありや、言つて聞かしてあげえだも、そうは内緒で話されんけん、また来年も頼みますけんあ」と、その小さな箱をまた薬箱の中へ入れて、そうして雪の降る道をとことこと歩いて、富山の方にいんでしまいなさつたや。その昔こーんぼち。

解説

越中富山の平内左衛門しつけいけこそきょうとけれ
ああ テッカハーカ
テッカハーカ
唱え言を2度唱えると、箱を懐の中で撫でな
さつた。箱から飛び出した小さな獣が大きくなつて、娘さんに手をかけているウバミまでとんで行って、大変な格闘の結果、化け物は娘さんを手つげずに山の奥の方にとんで逃げてしまった。

「富山の薬屋さん、どうもありがとございま
(元鳥取短期大学教授)
(水曜日に掲載)